

湛水直播管理情報 (第1号)

～ 湛水土中直播(カルパー) ～

平成29年4月14日
アルプス農協管内農業技術者協議会

苗立率の確保に向けて、種籾と圃場の準備をしっかりと！

1. 種子消毒・浸種・催芽

- (1) コシヒカリの種籾は10a当たり乾籾で3kg程度準備する。
- (2) 発芽・苗立ち向上のため、比重選・種子消毒を確実に行う。
- (3) 種子消毒は、モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。
- (4) 浸種は移植栽培と同様に、水温10℃以上15℃以下を保ち、積算温度100℃以上を確保するためしっかりと浸種する。
- (5) 発芽率を高めるために、浸種初日は水温12℃を確保する。
- (6) 催芽は、ハトムネから1mm程度の芽の長さに揃える。

※予定より早く催芽した場合は水から上げてムシロに広げ、陰干しをしておき、コーティング作業の4～5時間前に再び水に漬けてコーティングに備える。

カルパーコーティングに適した催芽の状態

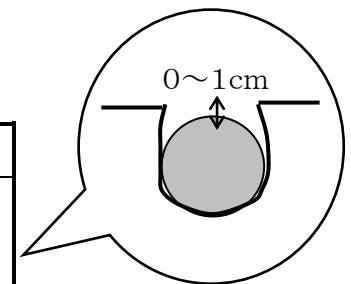


ハトムネ状態がベスト！

2. 代かき

- (1) 代かきは少なめの水で均平になるよう努めるが、ねり過ぎないように注意する。
- (2) 稲わらはしっかりとすき込む。

代かき時期	播種時の土の硬さの目安
沖積砂質乾田：播種2～3日前	1mの高さから落としたゴルフボールが、0～1cm程度沈み込む状態。
その他の土壌：播種4～5日前	



3. 基肥量の目安(コシヒカリ)

土壌区分	肥効調節型肥料体系		分施肥体系	
	LPss直播コシヒカリ	チッソ成分	BB基肥206	チッソ成分
砂壤土	32～35kg/10a	6.7～7.4kg/10a	26kg/10a	3.1kg/10a
壤土・黒ボク	25～28kg/10a	5.3～5.9kg/10a	22kg/10a	2.6kg/10a
粘質土	23～26kg/10a	4.8～5.5kg/10a	18kg/10a	2.2kg/10a

※大豆跡田及び堆肥施用田では肥効調節型肥料を使用しないで、分施肥体系の半量を目安に施用する。

4. カルパーコーティング

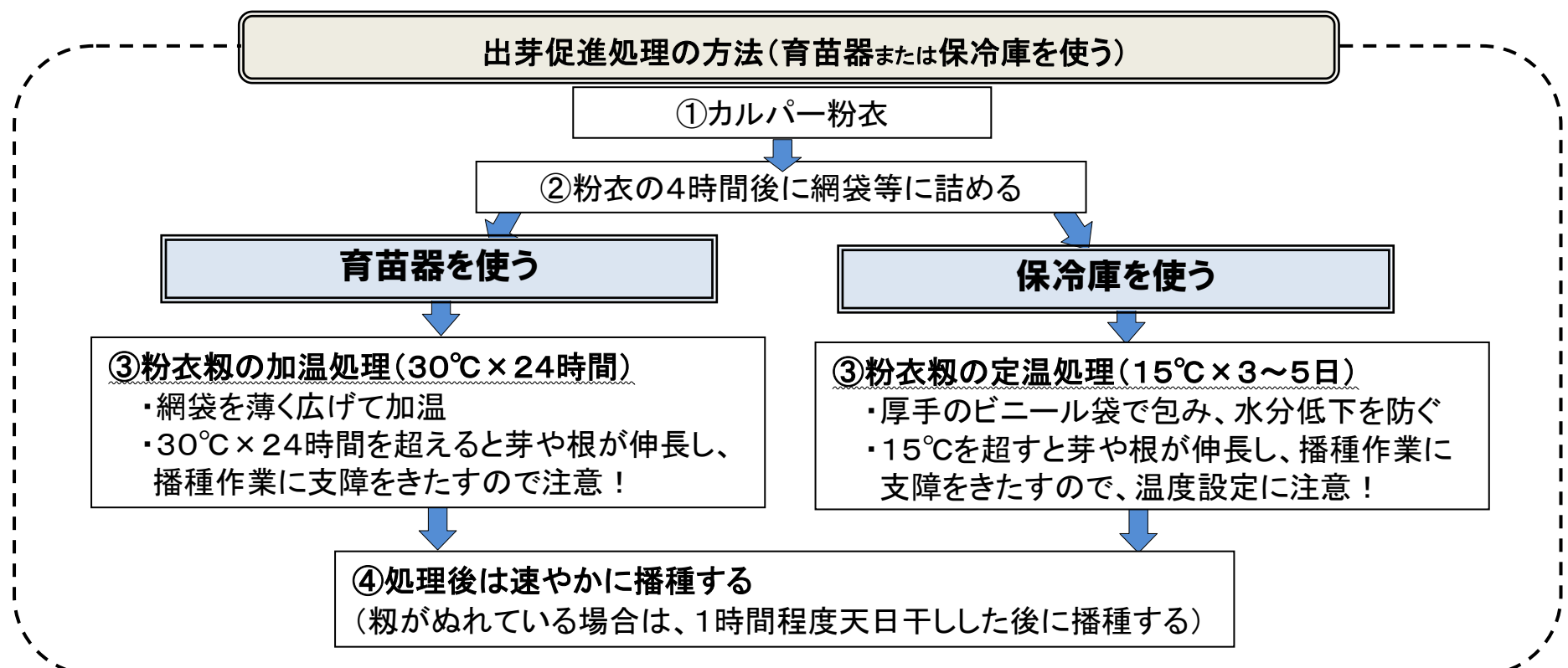
- (1) 均一にコーティングするため、催芽籾は十分に水切りする。
- (2) カルパー粉粒剤16は乾籾の等倍～2倍量程度を粉衣し、タチガレエースM粉剤を乾籾重量の3% (乾籾3kg当たり90g) 加える。
- (3) コーティング後は2～3時間陰干しする。ただし、乾き過ぎないように注意する。
- (4) コーティングした籾は早めに播種する。

5. 出芽促進処理

出芽促進処理を実施することにより、出芽の促進や安定した苗立ちを確保する。

『育苗器を使った加温処理』することにより、出芽が早くなり苗立ちが揃います。

また、カルパーコーティング後、播種まで日数がある場合は、『保冷庫を活用した定温処理』がオススメです。



6. 播種

- (1) 播種は4月25日～5月10日までに行う。
- (2) 播種量は乾粒で10a当たり2.5～3.0kgを目安に播種する。
- (3) 播種深度は5～10mm程度を目標に播種する。
- (4) **確実に覆土されていることを確認するとともに、播種作業中も種子や肥料の落下量を確認する。**
- (5) 降雨時の播種作業では粉衣粒が濡れないように注意し、**吐出口等で詰まっていないかこまめに確認する。**
- (6) 播種終了時に種子吐出口のカルパーの付着を掃除して取り除く。

足を踏み入れ、2～3cmしか沈まなくなった時期が入水の目安。
干し過ぎると、漏水により除草効果が劣るので注意！



適度な田干し状況

7. 播種後の水管理

- (1) 播種後は速やかに5～10m間隔で排水溝を掘り、落水を促す。
- (2) 圃場の透水性に応じ、土壌表面に小さな亀裂が入る直前まで田干しを行い、出芽に必要な酸素を供給する。
- (3) 砂壤土等3～4日で大きな亀裂が入る圃場では、いったん水を入れ、再度干す(2段干し)。
- (4) 出芽後は水深2～3cm程度の浅水管理をし、分げつの発生を促す。
- (5) 田干し期間中に大雨や霜が予想される場合は、事前に入水する。

8. 鳥害対策

- (1) できるだけカラスの飛来が少ない圃場を選定する。
- (2) スズメの食害は**2葉期頃**まで注意し、侵入した場合は速やかに**湛水**する。
- (3) カモの食害は**3葉期頃**まで注意し、侵入した場合は速やかに**落水**する。
- (4) **鳥害が予想される場合は、圃場に水系を張るなど予防対策を行う。**

播種後、ほ場周辺に水系を張り、鳥害を回避する。



9. 除草剤散布

- (1) 除草剤の散布は、出芽後入水し、**減水が落ち着くなど湛水状態が安定してから散布**する。
- (2) 散布時期を守り、遅れないように注意する。
- (3) 散布後5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は『止水管理』(「落水」や「かけ流し」をしない)とする。
- (4) 気温が高めに推移していることから、使用時期の範囲内で遅れないように注意する。

◎播種後の除草剤

	除草剤名	使用時期	使用時期の目安	使用量	使用方法	使用回数
初期剤	プレキープ1キロ粒剤	播種直後～ノビエ1葉期 (ただし収穫90日前まで) (出芽していなくても散布可能)	播種後 5～7日	1kg/10a	湛水散布	1回
	プレキープフロアブル			500ml/10a		
一発剤	ビッグシュアエース1キロ粒剤	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)	播種後 13～16日	1kg/10a	湛水散布	1回
	サラブレットRXフロアブル	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで)	播種後 13～16日	500ml/10a	湛水散布	1回
	バッチリ1キロ粒剤	イネ出芽揃期～ノビエ2.5葉期まで (ただし収穫90日前まで) ※イネ出芽揃期とは、緑色の不完全葉が 1m間に14～16本確認できる状態	播種後出芽揃い を確認して (7～9日)	1kg/10a	湛水散布	1回

◎除草剤散布の例 ～前年雑草が多かった圃場は「初期剤 + 初中期一発処理剤」～

除草剤の選択方法	播種後日数(目安)																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
雑草が多い場合					プレキープ1キロ粒剤 または プレキープフロアブル																	ビッグシュアエース1キロ粒剤 または サラブレットRXフロアブル

【イネの出芽が早く雑草が少ない場合】

バッチリ1キロ粒剤の散布のみの処理でもよいです。(イネ出芽揃いを確認して散布。)

【ノビエの発生が早く極めて多い場合】

プレキープ1キロ粒剤または同フロアブルを施用してもヒエの発生が多い場合はクリンチャー1キロ粒剤(対象雑草はノビエのみ)を散布しましょう(播種後10日以降)。